

情報共有 3枚
(非管理メモ)

宮崎列王
NISA班 ← フォス対流チーム
(分室OK)

東京電力株式会社

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成23年6月12日(日) 11:00~11:30

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約30名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (6月12日6:00現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (6月12日)
- ・ 福島第一原子力発電所2号機 原子炉建屋内空气中放射性物質濃度推移
- ・ キュリオン社製 セシウム吸着塔 概略図

より、プラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. セシウム吸着装置で発生した不具合とは。

A. 4つのラインの中の1つのラインのポンプの起動試験で流量が出ないという不具合が発生した。

Q. ラインのどの場所で流量が出なくなっているのか。

A. 確認させていただく。

Q. 正常な残りの3つのラインのみでシステムを稼働させることは可能なのか。

A. もともと吸着塔交換の際には1つのラインを止めて運用する予定だったので、3つのラインで運用を開始することも可能である。また、先行して、アレバ社の除染装置のアクティブ試験を開始することも検討しているが、本日中に今後の予定を決定したい。

Q. 状況によっては100%の能力でアクティブ試験をしないこともありうるのか。

A. まずは流量が出ていない原因を本日中に突き止めたいと考えている。修理の見通しを踏まえ、3つのラインを75%の能力でアクティブ試験を実施するのか、アレバ社の除染装置のアクティブ試験を先に実施していくのかを検討していく。

Q. 予定していた流量に対して、不具合が発生したラインはどの程度の流量なのか。

A. ポンプ1台の定格容量は $12.5\text{m}^3/\text{h}$ であるが、不具合時の流量については確認させていただく。

Q. 不具合原因の究明方法はどのように行うのか。

A. 段階的に流量、ポンプの吐出圧を測定しながら原因を突き止めていく。

Q. 2号機原子炉建屋の放射性物質濃度の分析結果で、初期値が低いのはまだ空気が流れていないという理解でよいか。

A. 初期値が低いのは近傍の空気がその程度の濃度であったためである。引き続き、傾向を監視してまいりたい。

Q. 放射性物質濃度のグラフを見ると、若干の上昇傾向にも見えるが、どのように評価しているのか。

A. どちらかといえば横ばいに近い。建屋内全体の空気が循環できるにはもう少し時間がかかると考えている。

Q. 今後は濃度が減少していくという理解でよいか。

A. 一時的な上昇はあると思うが、最終的には減少していく。

Q. セシウム吸着装置のラインで流量測定を実施している場所は。

A. 確認させていただく。

Q. ポンプそのものはどれも正常という理解でよいか。

A. ポンプ自体は起動しており、不具合はないと考えている。定格流量が出ていない状況であり、ラインのどこかに閉塞箇所があると想定しているが、ポンプ自体の性能も含めて原因を究明していく。

Q. ラインの中で上流側のポンプに不具合が発生すると、下流側のラインは使用できなくなるのか。

A. バイパスラインを設けている訳ではないため、不具合発生時はそのラインは使用出来なくなる。

Q. どの場所のポンプに不具合が発生した場合に、全て使用できなくなるのか。

A. 基本的には場所に限らず不具合が発生した当該ラインのみ使えなくなる。

Q. 1つのラインが使用できなくなり75%の能力の運転になった場合、キュリオン吸着塔前後の設備に与える影響は。

A. 油分処理装置、アレバ社の除染装置ともに繋がっており、システム全体としても75%の能力となる。

Q. キュリオンの吸着装置のラインの不具合を発見したのはいつ頃か。またその際の作業内容は。

A. 昨日6月11日22時頃である。ポンプを全台起動させ、各ラインごとに漏えいの確認をしていた時に発見した。

Q. 不具合が確認された当該ラインには漏えい箇所があったのか。

A. 漏えい箇所は十数カ所あり、このラインに限らずあったと考えている。

Q. 実際に水の漏えいは確認されているのか。

A. 漏えいそのものは確認できていないので、床に漏れているということはない。

Q. 2・3号機の汚染水をプロセス主建屋へ移送しているが、ポンプの定格容量は2号機は $24\text{m}^3/\text{h} \times 2$ 台、3号機は $20\text{m}^3/\text{h} \times 1$ 台という理解でよいか。

A. 2号機は $12\text{m}^3/\text{h}$ 2台。3号機はその理解でよい。

Q. プロセス主建屋で残り1.1mの余裕があるとのことだが、 $1,000\text{m}^3/\text{日}$ で移送した場合プロセス主建屋は $20\text{cm}/\text{日}$ で上昇していくことになるが、6月20日まで受け入れることは可能なのか。

A. ポンプの移送量は定格容量に対する運転時間で計算しているのだから、建屋の水位で観察した方がよいと考えている。プロセス主建屋にはまだ、約1.1mの余裕がある状況であり、引き続き水位を観察していく。移送量で残りの受け入れ日数を算出することは困難であると考えている。なお、20日まで移送が可能と判断しているのは、移送量と海拔4mに到達するまでの時間両方を含んでおり、到達後はタービン建屋に貯まることになる。タービン建屋およびトレンチ水位4mから見ると、現在水位は20cm下にあるためポンプを止めて $20\text{mm}/\text{日}$ で上昇すると見ても10日はもつことになる。

Q. 1号機復水器の受け入れ可能容量は。

A. 約 $1,200\text{m}^3$ である。

Q. 雑固体廃棄物減容処理建屋への移送の受け入れはまだ実施できないのか。

A. 原子力安全・保安院の確認をまだ受けていないため実施できない。

Q. ポンプの起動試験で流量が出ない原因として、何かが詰まっている可能性があるのか。

A. 現時点では分からない。1つのラインのみ詰まっている理由も含めて確認させていただく。

Q. 水処理システムの本格稼働時期についての変更はあるのか。

A. 当初6月15日前後とお伝えしていたが、このような状況となり稼働時期は見通せない状況。アクティブ試験はセシウム吸着塔で2日、アレバ社の除染装置で2日、総合試験で1日かかる見通しだが、今後その工程が短縮できるかどうかも含めて検討する。

Q. セシウム吸着装置のアクティブ試験は、明日以降に実施するということか。水処理システム全体の本格稼働は最短で何日か。

A. セシウム吸着装置のラインの補修が本日中に終了すれば、本日中のアクティブ試験の開始もあり得るが、補修が長引けば明日以降、アクティブ試験の開始となる。仮に本日から5日間アクティブ試験に費やした場合、最短で6月17、18日からの本格稼働となる。

以上